

岡山中央病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【岡山中央病院の基本情報】

医療機関名： 岡山中央病院

開設主体： 医療法人

所在地： 岡山市北区伊島北町6-3

許可病床数： 162床

(病床の種別)

一般病床

(病床機能別)

高度急性期 6床 急性期 156床

稼働病床数： 139床

(病床の種別)

一般病床

(病床機能別)

高度急性期 6床 急性期 133床

診療科目：内科・泌尿器科・産婦人科・外科・循環器内科・整形外科・眼科・放射線科
神経内科・麻酔科・脳神経外科・救急科・消化器内科

職員数：

- ・ 医師 常勤 18 非常勤 6.1
- ・ 看護職員 148
- ・ 専門職 76
- ・ 事務職員 17

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

・5市2町からなる県南東部医療圏において、当院が位置する岡山市はおおよそ2030年までは人口増加や高齢者比率も上がる事より医療需要の増加が見込まれる。しかしながら岡山市は一般病床の入院施設が充実しており、医療需要増加にあっても2025年には高度急性期、急性期それぞれ約1200床、1400床のベッドが過剰とされており、逆に回復期は約1800床不足と予想されている。ただし当院が位置する岡山市北部では岡山市中心部、南部とは若干の年齢階級別人口比率や救急医療体制の充実度に差がある。当院は4機能の内、高度急性期、急性期、回復期を担っているが高度急性期、急性期とも空きベッドが目立つようになってきている。逆に回復期にはベッド不足の傾向がある。歴史的に高度急性期、急性期については、主に市の救急車搬送による救急患者の供給に頼るところが多かったが、ここ数年他の多くの病院の救急体制が充実し、各病院の救急応需率が軒並み2割程度上がっている現状では、当院の高度急性期、急性期ベッドの空きはある意味正常過程とも言えないでもない。

・救急収容時間は、平均35分前後であり、病院間での獲得争いとなっている

・県南東部では、脳卒中や大腿骨骨折や成人肺炎が増加傾向であるが、急性期を脱した後の受け皿がない

・病院や診療所の数が多く、機能分化もされていない

・県南東部のデータ195万人 人口減になるが医療介護のデータは上がっている。岡山県出産率の低下、構想区域は低下しないデータである

② 構想区域の課題

・回復期、慢性期病床が不足している。高度急性期、急性期については複数の医療機関で機能が重複し、患者の獲得競争もどきが起きている。各々の病院がお互いに連携し、機能を分担し効率の良い機能分化が必要。しかし岡山大学メディカルセンター構想なる新たな連携構想もあり、この部分との整合性が不明。また時間帯によっては岡山市で死者1400名、負傷者17000名と推定されている南海トラフ地震対策としての急性期ベッド担保が今後どうなされるのかが不明。

・病院や診療所の数が多く、医療従事者（特に、医師）が分散している。また、患者の収容が分散されている

・病診介看の連携が乏しいため、包括ケアシステムが定着していない（在宅への支援に偏りがある）

・構想区分での格差があり、偏りがある。

③ 自施設の現状

・7対1看護体制の162床での運用であるが、看護師不足もあり1病棟を現在閉鎖し139床で運用しているが、それでも稼働率が以前ほど上がらない。平均在院日数も極めて短くなっているため、延べ患者は多くても稼働率はどうしても低下する。が稼働率を上げるために在院日数を延ばす事は方針として行っていない。また急性期病棟での重症度・医療看護必要度は基準を十分満たしているが、1次～3次救急施設の役割分担が以前の様に名目だけでなく実務的に現実になっている事、高齢者の終末期のあり方、重度交通外傷の減少等より集中治療室すなわち高度急性期病棟の稼働率が激減している。加えて集中治療室の入室基準、重症度基準が厳しくなったことも起因している。同法人病院である透析および回復期リハビリ病院である「岡山中央奉還町病院」が老朽化の為、建て替えもしくは合併移転を迫られている。

④ 自施設の課題

・休床ベッドを急性期として再開するか否かその良否の判断に直面している。また、81床を有する「岡山中央奉還町病院」の合併移転問題に際しての現岡山中央病院の病棟機能の見直し、再編成、病床数の見直しが必要。つまりはケアミックス的な機能を持つ事が地域医療構想にマッチするのではないかとこの意見。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

・現状通り、主に正常分娩を扱う産婦人科を中心とした、科に偏らない女性を中心としたウイミンズメディカルセンターとしての機能。結石治療や放射線治療を主体とする泌尿器科センターとしての役割。救急専門医を数名配置した2次救急施設として岡山市北部の救急医療を岡山医療センターと共に行う。同じく岡山市北部の地域包括ケア制度の中で準基幹病院としての役割。

- ・急性期を脱した受け皿となる
- ・在宅療養を支援している医療機関の受け皿になる
- ・在宅に向け、機能を回復・維持できる
- ・在宅後の生活を支援する（訪問の充実：看護やリハビリや薬剤）

② 今後持つべき病床機能

- ・回復期機能及び透析病院としての機能。長期入院が可能な透析ベッド（例えば地域包括ケア病棟など）

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	6	→	
急性期	156		
回復期	0		
慢性期	0		
(合計)	162		

※上記病床数は、今後移転計画の立案を進めて行く過程で、検討・決定。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	奉還町病院移転計画立案		<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 集中的な検討を促進 2年間程度で </div>
2018年度			
2019～2020年度	奉還町病院移転 岡山中央病院に合併		<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> 第7期 介護保険 事業計画 </div>
2021～2023年度			<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> 第8期 介護保険 事業計画 </div>

第7次医療計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	内科・泌尿器科・産婦人科・外科 循環器内科・整形外科・眼科 放射線科・神経内科・麻酔科・ 脳神経外科・救急科・消化器内科	→	
新設		→	リハビリ科
廃止		→	
変更・統合	総合診療科 消化器内科	→	総合診療科 腎臓内科 消化器内科

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率： ・ 手術室稼働率： ・ 紹介率： ・ 逆紹介率 <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率： ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： <p>その他：</p>
--

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】
(自由記載)

--

